

## 議事概要(日本語)

環境省のアドバイザーである星野氏により開会の挨拶があり、同氏は、COP12 開催国である大韓民国に対し謝辞を述べた。さらに、COP12 サイドイベント及び第 6 回アジア太平洋地域生物多様性観測ネットワーク (AP-BON) ミーティング開催に際し NIBR 及び関係者にも謝辞を表した。同氏はまた、生物多様性の重要性に関し強調し、AP-BON は政策、データ整備、ネットワーク構築等に貢献していると述べた。次に、矢原氏が本日のプログラム概要を説明し、AP-BON の発足から現在までの活動概要に関するプレゼンテーションを行った。同氏は 2012 年に出版された「アジア太平洋地域における生物多様性ネットワーク」と 2014 年に出版された「統一的観測と評価」の 2 冊を紹介した。さらに、AP-BON は GEO BON、愛知ターゲット、生物多様性及び生態系サービスに関する政府間科学政策プラットフォーム (the Intergovernmental science-policy Platform on Biodiversity and Ecosystem Services: IPBES) にも貢献できると述べた。最後に世界各国・地域の BON との連携を通じてグローバル多様性への貢献方法に関しこのシンポジウムで議論し、3 冊目となる AP-BON の本の出版に反映させたいと述べた。

次に、Pereira 氏(GEO BON)による GEO BON と地域ネットワークの統合および EBVs に関する説明がなされた。同氏は、GEO BON は生物多様性の情報共有および管理ツールを提供できる総合的なグローバルネットワークを目指していると述べた。CBD の目標を 2020 年までに達成できるようモニタリング機能としての役割も果たすため EBVs が開発されたことも説明した。

Park 氏(韓国)は K-BON の組織概要等の説明後、K-BON を利用した民間科学者との持続可能な生物多様性観測ネットワークに関するプレゼンを行った。また、それらを集積する情報管理システムとして GPS を利用した種の写真をまとめた K-BON モニタリングアプリケーションが開発されたことにも触れた。

Ma 氏(中国)は主に Sino-BON の役割の一つである Chinese Forest Biodiversity Monitoring Network (CForBio)の主な活動内容を説明し、その具体例として Xishuangbanna の熱帯雨林と Gutianshan の亜熱帯常緑樹林における分布を紹介した。

Vergara 氏(ACB)は ASEAN10 カ国との生物多様性に関連した協議の円滑化と調整、政策展開、PAMマネジメント等の対処能力強化、情報供与のための枠組みと施設の提供を含めた ASEAN Centre for Biodiversity (ACB)の役割に関し言及し、ACB が進めている生物多様性情報マネジメント、ASEAN Clearing House Mechanism, Knowledge Products に関しプレゼンテーションを行った。

石井氏はまず J-BON のミッション、8 つのワーキンググループ、JaLTER, GBIF, GEO BON, AP-BON との連携に関し説明を行った。さらに J-BON は衛星データを入手するため JAXA といった他の組織とのネットワークづくりも行っていることを紹介した。

最後に Damaedi 氏(インドネシア)はインドネシアにおける生物多様性に関する観測活動に関しプレゼンを行った。ここ 10 年、種の絶滅危惧や遺伝的浸食は減少傾向にあるものの、依然、種の絶滅や遺伝的浸食はほとんどの島で見られる傾向にあることを指摘した。それらの生物多様性の観測活動は個々にあるいは国際的なネットワークと共同で様々な機関にて行われているが、

正式な生物多様性観測ネットワークがまだ設立されていないと述べた。

(主な質疑応答等)

Pereira 氏(GEO BON)により政府の BON に対するスタンスと個々のネットワークにおけるシステマティックな関係性について質問があった。Kim 氏(韓国)は、現在は生物多様性のモニタリングと評価を重視しており、次の段階で地域間のネットワーク構築に関し協議がなされるであろうと述べた。Ma 氏(中国)は Sino-BON は中国科学院(the Chinese Academy of Science)からの財政的支援を受けていること等を説明した。

Freyhof 氏(GEO BON)からデータの共有化に関し質問があった。AP-BON と他のネットワークとのデータの共有に関し議論があり、現在、データの交換に関する国際基準を設けているとの回答があった。さらに同氏はデータのグローバル基準の必要性に関し言及した。

最後にカンボジアからの参加者から外来種等に関するデータとモニタリングに関し質問があった。